

9月彼岸出荷向けの白色コギク新品種「常陸オータムホワイト」		
[要約] 「常陸オータムホワイト」は花色が白色で、節数、分枝数および花蕾数が「せせらぎ」や「いこい」よりも多く、ボリューム感に富む。開花は9月中旬で、彼岸向けの出荷が可能である。		
農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所	成 果 区 分	普 及

1. 背景・ねらい

茨城県のコギクは、県内の切り花出荷品目では産出額が第1位、全国においても栽培面積が第2位、出荷量が第3位のシェアを占め、重要な花き品目となっている。生産現場では、7月東京盆、8月旧盆、9月彼岸の物日出荷に対応するため、100を超える品種が栽培され、栽培管理の煩雑化が問題となっている。また、民間種苗会社の品種は育成地が県外であるため、本県における需要期出荷が困難であることが多いので、生産現場からは県による育種の要望が高い。そこで、市場から求められている頂点咲きの草姿で、物日出荷に対応できる県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成16年に「せせらぎ」の自然交配種子を採種し、得られた103の実生から選抜した品種である(図1)。
- 2) 花色はRHSカラーチャートで155Cの白色である(図1、表1)。
- 3) 開花時期は9月中旬で「せせらぎ」より数日遅く、「いこい」より10日以上遅い(表1)。
- 4) 節数、分枝数および花蕾数は「せせらぎ」や「いこい」よりも多くボリューム感に富む品種である(表1)。
- 5) 現地試験は、総合評価が中から良で、収量と切花長の評価が良好である。2年間の現地試験の中で、同一生産者1名から2年連続で導入希望がある(表2)。
- 6) 市場評価は、全項目で悪い評価はなく、総合評価は普通よりやや良い評価である(表3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 平成23年3月18日に品種登録された(登録番号 第20659号)。
- 2) 育成時の系統番号は「ひたち9号」および「生研11号」である。
- 3) 県内全域で栽培できるが、表1の特性値は笠間市安居におけるものである。
- 4) 種苗は、(社)園芸いばらき振興協会を通じて、県内配布予定である。

4. 具体的データ

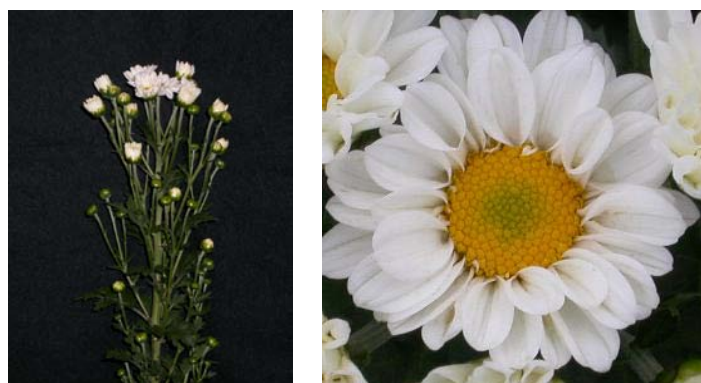


図1 コギク「常陸オータムホワイト」

表1 コギク「常陸オータムホワイト」の特性（試験：平成20年、笠間市安居）

品 種	花色 (RHS) ¹⁾	開 花 始～終 (月・日)	切 花 長 (cm)	切 花 重 (g)	節数 (節)	分 枝 数 (本)	花 蕾 数 (輪)	花径 (cm)
常陸オータムホワイト	白 (155C)	9.9～9.17	86.2	75.4	60.4	15.0	58.5	3.6
せせらぎ	白 (NN155B)	9.7～9.12	87.4	69.1	45.2	9.2	28.2	4.4
いこい	白 (NN155B)	8.30～9.3	82.4	63.6	42.8	8.4	23.4	4.8

1) RHS カラーチャートによる。

表2 現地試験におけるコギク「常陸オータムホワイト」の生産者評価

試験年	導入希望 有：無	総合 評価	収量	作り やすさ	病虫害 発生	切 花 長	花色	花質	茎葉 色	ボリュ ーム	草姿
平成19年	1：2	3.7	3.3	3.0	2.7	3.7	3.3	3.3	2.7	2.7	3.3
平成20年	1：2	3.0	3.3	3.3	3.2	3.3	3.0	3.0	3.0	3.3	—

注) 生産者3名による評価。総合評価・作りやすさ・切花長・花色・花質・茎葉色・ボリューム・草姿；1：極劣，2：劣，3：中，4：良，5：極良。収量；1：極少，2：少，3：中，4：多，5：極多。病虫害発生；1：甚，2：多，3：中，4：少，5：無。

表3 コギク「常陸オータムホワイト」の市場評価（試験年次：平成19年）

花色	花の大きさ	花の形	花数	茎葉の色	ボリューム感	草姿	総合評価
普通	良い	やや良い	普通	普通	普通	やや良い	やや良い

注) 評価者数は12名。評価者の結果を良い、やや良い、普通、やや悪い、悪いの5段階化した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 本県小ギク産地活性化のためのブランド品種の育成・平成14～平成19年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 3) 新品種育成普及促進事業・平成19年度～・園芸研究所花き研究室